

## 事業実施の目的・必要性

羽幌港と焼尻島、天売島を結ぶ離島航路(羽幌～天売航路)は、他に島を結ぶ航路がない唯一の航路である。

本航路は、生活物資及びごみ処理、し尿処理車輛の輸送等においてなくてはならない生活の足であり、また、各離島住民は本土の羽幌町の病院や歯科医院へ通院しており、本航路の利用が不可欠となっている。

令和5年3月現在、離島住民の人口は焼尻島が162人、天売島が258人で年々減少し、過疎化も進行しており、また、令和5年3月現在における高齢化率は、天売島で41%、焼尻島で57%と著しく高い状況にあるなど、航路を取り巻く環境は厳しく、事業者が単独で航路を維持していくことは困難であり、その維持には公的支援が必要な状況にある。

### ●地域公共交通の現状

- ・沿岸バス(株) (町内3路線、札幌1路線)
- ・本離島航路のみ

### ●協議会開催状況

- ・令和5年度第1回協議会  
主な協議事項  
令和6年度離島航路確保維持計画案の検討

## 生活交通確保維持改善計画の目標

羽幌～天売航路の利用者は、島民の利用がおよそ2割弱で推移しており、観光客など島外からの利用者が8割以上を占めている。

事業者はもとより関係者の連携のもと、下記の取組を実施している。令和5年度は、新型コロナウイルスの5類移行に伴い前年度より航路利用者は回復傾向で推移したところ。

- ・自然体験の学習を目的とした利用者の誘致や学生、夏休み親子割引、レンタカーセット割引の実施
- ・天売島のウニ、焼尻島のサフォークめん羊、羽幌町の甘エビなど地域の味覚を活かした観光イベントとの連携による利用客数の向上
- ・フェリー乗船割引特典付きの管内バス乗り放題周遊券（フリー切符）の販売
- ・天売島の海鳥の写真撮影など、体験型ツアーの開発・実施

今後も観光地としての魅力づくりと上記取組に係る情報発信により観光客の維持・拡大を図り、年間約37,000人以上の航路利用者の確保及び欠損の抑制に努める。

## 令和5年度事業概要

天売島・焼尻島両島と本土とを結ぶ唯一の交通手段で、島民の通院や買い物、両島での観光客やビジネス関係者が主な利用者となっており、閑散期（9月1日～5月31日のGWを除く）においては1日1～2便、繁忙期(6月1日～8月31日)においては1日4～6便の運航をすることとしている。

## プロセス、創意工夫

離島航路事業運航計画に基づき、航路事業者は、関係機関と連携し、次のとおり事業を行った。

### ①バス事業者と連携した取組

- ・路線バスの乗り放題きっぷ（萌えっ子フリーきっぷ）の提示による割引運賃を設定

### ②レンタカー会社及び地元ホテルと提携した取組

- ・特定のレンタカー会社で車をレンタルした方は、フェリー運賃について割引運賃を設定
- ・はぼろ温泉サンセットプラザの協力により、上記割引に加え、温泉入浴料も割引料金を設定

### ③経費の削減

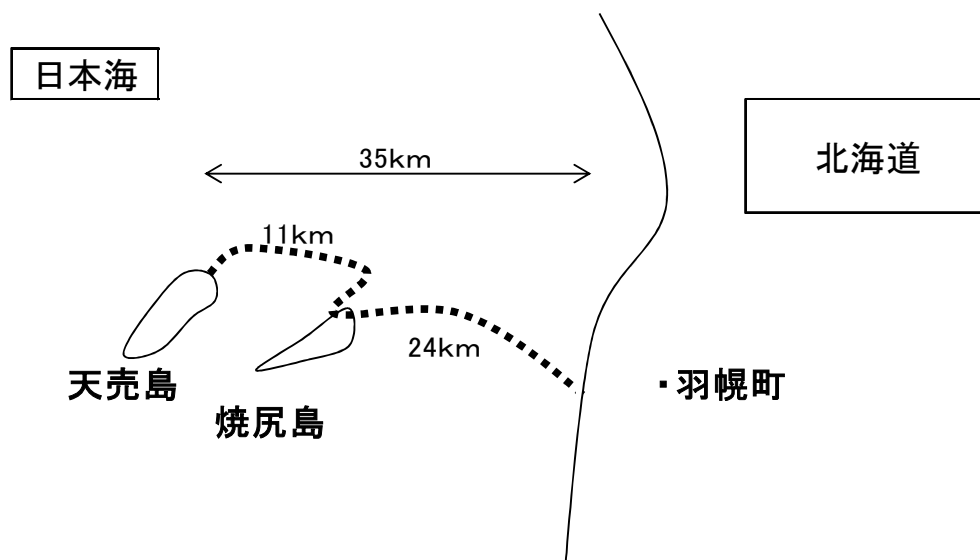
- ・競争入札の実施（船舶修繕費、燃料費等）など

### (参考)

羽幌町：航路事業者と連携し、札幌市内で「天売島・焼尻島PRイベント」を4回開催  
謎解きイベント「～天売島・焼尻島・兄弟島の伝説～宝島2023」の開催  
「焼尻めん羊まつり」の開催 など  
振興局：振興局HPやSNSなどを活用しながら、島の魅力を情報発信



## 運航航路



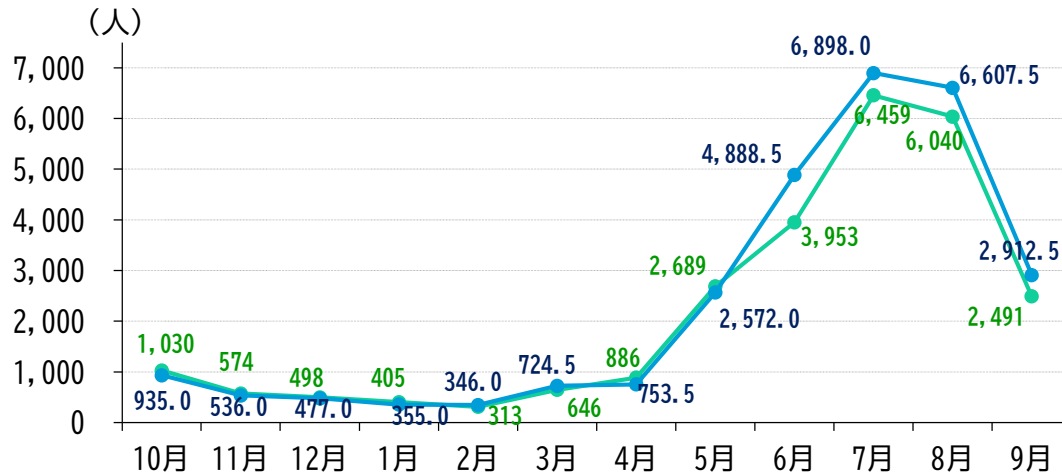
国定公園焼尻島（手前）天売島（奥）

# 令和5年度 旅客・貨物の輸送状況

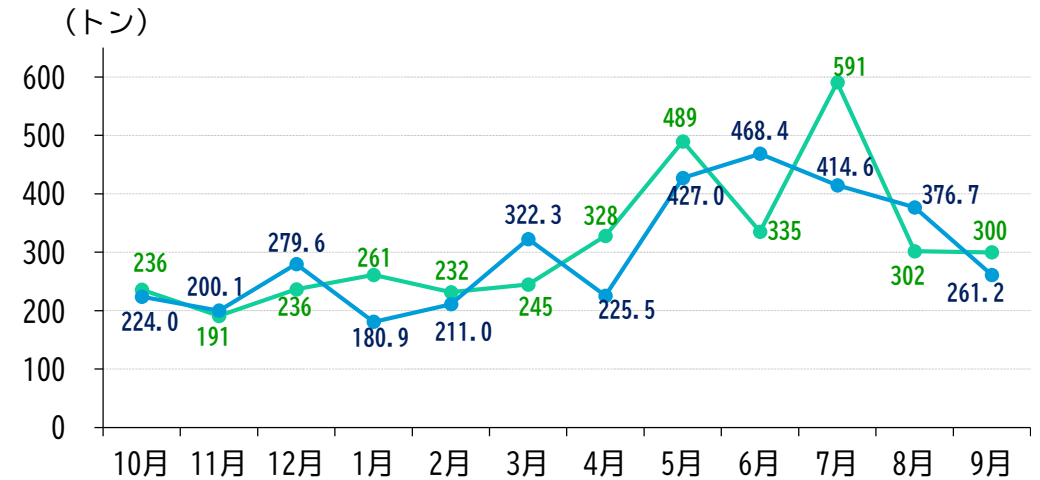
○旅客輸送・運賃については、昨年度から比較し増加したが、貨物輸送・運賃については減少

R4 —●—  
R5 —●—

旅客輸送 R4:25,984人 R5:28,005.5人

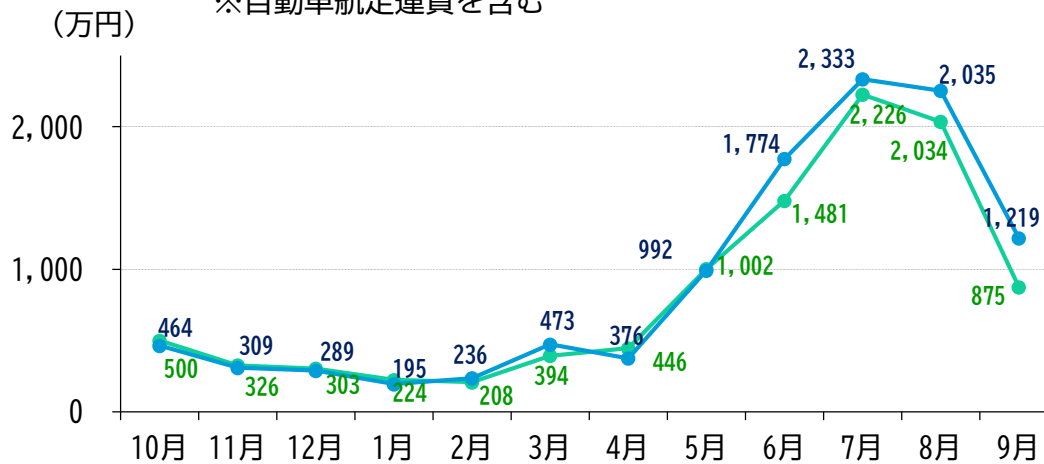


貨物輸送 R4:3,746トン R5:3,592トン

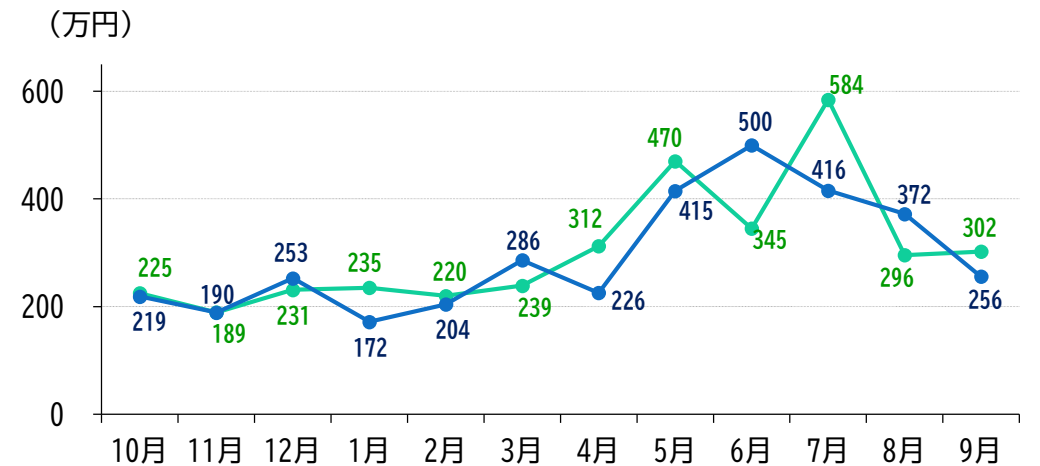


旅客運賃 R4:10,020万円 R5:10,914万円

※自動車航走運賃を含む



貨物運賃 R4:3,649万円 R5:3,507万円



## 事業実施の適切性及び目標・効果の達成状況

運航計画に沿って適切に実施された。計画時の見込に対する達成状況については次のとおり。

	計画値	実績値	差	達成率
旅客輸送実績	37,000.0 人	28,005.5 人	▲8,994.5 人	75.7 %
貨物実績	3,304.3 トン	3,591.3 トン	287 トン	108.7 %
旅客運賃	57,356,110 円	63,076,560 円	5,720,450 円	110.0 %
貨物収入	32,495,210 円	35,063,197 円	2,567,987 円	107.9 %
収入合計	188,816,743 円	187,104,520 円	▲1,712,223 円	99.1 %
燃料潤滑油費	58,408,065 円	72,090,205 円	13,682,140 円	123.4 %
費用計	436,679,367 円	432,388,116 円	▲4,291,251 円	99.0 %
純損失	247,862,624 円	245,283,596 円	▲2,579,028 円	99.0 %

利用客人数・旅客収入は回復傾向にあるものの、収入額としては補助金等の雑収入の減により187,105千円となった。  
 費用は燃料単価の高騰や燃料消費量等の増加はあったが、退職者が発生しなかったなどによる店費の減少により、計432,388千円となった。  
 結果、欠損額としては目標値を2,579千円下回る245,283千円となった。

## 事業の今後の改善点

イベント参加等をはじめとしたプロモーションや広告宣伝事業の実施については、一定程度、実施出来たものと考えており、今後も感染拡大の状況に注視しつつ、関係機関と連携した利用促進に向けた取組を継続していくとともに、一層の経費削減を行い欠損額の抑制に努める。

## 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

(令和6年度分と併せて評価)